

【古文読解】

「誰が」「どうした」を意識したあらすじのとらえ方

古文って、どっぴやって読めばいいかわからない…

現代とは違う言葉が
すらすらと並んでいて、
話の内容がつかみにくい。

古文読解で
内容をつかむために

「誰が」「どうした」を
意識すると、あらすじ
がつかめる！

「あらすじ」とは大まかな話の流れのことだ。左の例を見ると、
○で話の流れがわかるだろう？

例

生まれたばかりの	小さくて
かわいい	赤ちゃん○が
ふかふかの	すやすやと
ベッドで	寝ている

今回は「誰が」のつかみ方をやっていくぞー！

読解のコツ「誰が」「どうした」を意識してあらすじをつかもう！

ポイント① 登場人物を見つける

同一人物には同じ印をつけて読み進めるべし！



登場人物を見つけるときは、次の二点に注目しよう！

人物は官位・役職名・居住場所の名称などで表すことができる
例「頭中将」「小式部内侍」「院」
※「殿」「あるじ」など、上下関係や家の中での立場を表す呼び名で表すこともある。
同じ人物でも呼び名が変わることがある
例見れば、「三寸ばかりなる人、いとうつくしうてあたり。…この児、養ふほどに、…なよ竹のかぐや姫とつけつ。」

ポイント② 登場人物が「主語」であるかを判断してあらすじをつかむ

主語であることが多い、次の三つのパターンを探そう！

人物+「、」
人物+「の」
人物+「あり」

文意が通るか確認し、「主語」の
ありそうな人物に「が」「は」
を補い、「どうした」をセット
で読み進めるのだ。

例比叡の山に児ありけり。僧たち、…と

言ひけるを、この児、心寄せに聞きけり。

そうか、古文では、「が」「は」
は省略されがちなね。



次のページで試してみよう

基礎レベル

確認問題

次の作業を行い、「誰が」「どうした」を意識して、あらすじをつかんだうえで問いに答えよう。

▼問題文中の登場人物を、人物ごとに見分けがつくように囲もう。

▼その人物が主語の場合、囲みのあとに「が」「は」を補おう。

例 黄男ありけり。…。女一人をじつめて…。

清盛、高野へ参り、大塔を拜み、奥の院へ参られたりければ、いづくともなき老僧の、まゆには霜をたれ、額に波をたたみ、鹿杖にすがりて出で来たまへり。

(1) 平安物語

*高野―和歌山県の高野山のこと。真言宗の総本山で、多くの寺院がある。
*大塔―仏像などを安置する塔。
*奥の院―本堂の奥に位置する神聖な区域。
*いづくともなき―どこから来たということもない。
*鹿杖―先端が鹿の角のように二股になっている杖。

ポイント②をつかむ！

(2) 次の文の空欄に、(1)で答えた人物を当てはめ、問題文のあらすじを完成させよう。

高野山へお参りし大塔を拜んで①が奥の院へ参ると、眉が白く額にしわのある②が現れた。

①

②

ヒント
▼登場人物が主語かどうかを判断して、「誰が」「どうした」をつかもう！
人物+「、」人物+「の」の場合、その人物は主語であることが多い。(1)でつかんだ人物が「どうした」の主語に当てはまるかを考えよう。

重要

「誰が」「どうした」を意識してあらすじをつかもう！

ポイント① 登場人物を見つける

ポイント② 登場人物が「主語」であるかを判断してあらすじをつかむ